

【打上】元屋敷, 20020726, 2exs, 川原篤志; 東草野, 20020726, 4exs, 川原篤志.

キヌマトイガイ科 Hiatellidae  
キヌマトイガイ *Hiatella orientalis* (Yokoyama, 1920)

【刺網】東草野, 20040801, 1ex, 宮本望.

フナクイムシ科 Teredinidae  
フナクイムシ *Teredo navalis* Linnaeus, 1758

【打上】元屋敷, 20030810, 2exs, 布村昇.

### 文献

奥谷喬司編(2000)日本近海産貝類図鑑. 東海大学出版会, 東京

布村昇編(1988)富山と能登の貝. 富山市科学文化センター収蔵資料目録2:1-128

布村昇・宮本望(1999)富山市科学文化センター収蔵の氷見海岸産無脊椎動物. 2. 軟体動物. 富山の生物38:41-57

布村昇・宮本望・高山茂樹・常石玲子・邑本順亮・北浦清・瀧口景子(2004)富山県神通川-庄川間の海産貝類相-1. 富山県生物学会誌 43:21-32

布村昇・宮本望・高山茂樹・常石玲子・邑本順亮・北浦清・瀧口景子(2004)富山県神通川-庄川間の海産貝類相-2. 富山県生物学会誌 43:33-46

肥後俊一・後藤芳英(1993)日本及び周辺地域産軟体動物総目録. 693+13+148+1 エル貝類出版局. 八尾(大阪府)

宮本望・高山茂樹・邑本順亮・布村昇(2000)蛇ヶ島の貝類, 富山の生物39:41-56

宮本望・布村昇(1999)富山県高岡市雨晴産海産貝類, 富山市科学文化センター研究報告22:39-53

## 富山県における哺乳類の記録 (2004年)

村井仁志<sup>1)</sup>, 間宮寿頼<sup>2)</sup>, 南部久男<sup>3)</sup>, 岡圭一<sup>4)</sup>, 西岡満<sup>5)</sup>, 白石俊明<sup>1)</sup>, 見浦沙耶子<sup>1)</sup>, 細川美和子<sup>6)</sup>, 森大輔<sup>1)</sup>

<sup>1)</sup> 富山市ファミリーパーク

〒930-0151 富山県富山市古沢254

<sup>2)</sup> 富山県立山センター 立山自然保護センター

〒930-1414 中新川郡立山町芦峯寺(室堂平)

<sup>3)</sup> 富山市科学文化センター

〒939-8084富山市西中野町1-8-31

<sup>4)</sup> 富山県鳥獣保護センター

〒939-2632富山県婦負郡婦中町吉住1-1

<sup>5)</sup> 西岡動物病院

〒933-0803富山県高岡市出来田262-3

<sup>6)</sup> 富山県動物生態研究会

## Records of Mammals Collected in Toyama Prefecture (2004)

Hitoshi Murai<sup>1)</sup>, Kazuyori Mamiya<sup>2)</sup>, Hisao Nambu<sup>3)</sup>, Keiichi Oka<sup>4)</sup>, Mituru Nishioka<sup>5)</sup>, Toshiaki Shiraiishi<sup>1)</sup>, Sayako Miura<sup>1)</sup>, Miwako Hosokawa<sup>6)</sup> and Daisuke Mori<sup>1)</sup>

<sup>1)</sup> Toyama Municipal Family Park Zoo 254, Furusawa, Toyamashi, Toyama PRE, 930-0151, Japan

<sup>2)</sup> Toyama Nature Conservation Center (Murodo daira) Ashikuraji, Tateyamamachi, Nakaniikawagun, Toyama PRE, 930-1414, Japan

<sup>3)</sup> Toyama Science Museum 1-8-31, Nishinakano-machi, Toyama-shi, Toyama, 939-8084, Japan

<sup>4)</sup> Toyama Prefectural Wildlife Protection Center 1-1, Yoshizumi, Fuchuumachi, Neigun, Toyama PRE, 939-2362, Japan

<sup>5)</sup> Nishioka Animal Hospital 262-3, Dekiden, Takaokashi, Toyama PRE, 933-0803, Japan

<sup>6)</sup> Toyamaken Doubutu Seitai Kenkyukai

### はじめに

村井他(2003, 2004)は富山県における陸棲哺乳類の目撃情報や事故死の情報を, 2003年11月以前のものについてデータベース化し, 報告した。これらのデータは, 筆者らが, 各自の哺乳類の調査, 研究を進めていく上での基礎的なデータとして, また, 県内の哺乳動物相の生息状況を明らかにし, 保全を考える上で有用な基礎的データとなる可能性をもつ。また, 継続してデータベース化し, 報告していくことで, 県内の哺乳動物相の変遷についても掌握することができるものと考えている。

筆者らは, 昨年に引き続き2003年12月から2004年11月までの陸棲哺乳類の目撃情報や事故死の情

報についてまとめたので報告する。なお, 2004年11月以前のもので未発表の記録についてもここで報告する。

### 方法

日常の活動で得られた哺乳類やその痕跡の目撃および目撃情報を, 村井他(2003)に従い分かる範囲で項目別に記録した。今回のデータは2003年12月から2004年11月までの富山県内の情報である。なお, 新聞情報も含み, 富山の哺乳類に関する記事で, 写真などで種の鑑定ができる信頼性のあるものは, 大部分掲載した。それ以外に, 2004年11月以前のデータで記載されていないものについても掲載した。

なお、記録方法において変更した点は次のとおりである。「確認年月日」について上旬・中旬・下旬までわかるものについては記録に反映させることとし、下二桁をそれぞれAA, BB, CCとすることとした(例:2004年10月上旬を200410AA)。「確認場所」の市町村名では、2004年11月1日に砺波市と庄川町が合併し「砺波市」となり、井波町、井口村、福野町、城端町、平村、上平村、利賀村、福光町が合併し「南砺市」となったため、11月1日以後の「確認場所」の「市町村」の項目には合併後の市の名称を記載し、その後( )内に旧市町村名を記載した。

### 結果及び考察

本調査において239件6目11科17種の哺乳類に関する情報を収集することができた(表1)。これらの中から特筆すべきことについて述べるが、ツキノワグマの件数が多く、本種とその他の哺乳類に分けて述べる。

#### 1. ツキノワグマ *Ursus thibetanus*

本種の記録は136件と今回最も多く、そのうち131件は2004年に入ってからのもので、さらに122件は通報などにより新聞に記載された記録であった。これは2004年の人里への本種の頻繁な出没が相次いだためである。

1) 人身被害及び家屋・建造物侵入・家畜被害  
人身事故の件数は20件と過去35年間さかのぼっても例のない記録で(表2)、被害者数も24名を記録した。また、それ以前の記録では進野(1954)は昭和28年に本種の出没により26名が負傷していることを述べており、今年の出没による人身被害はその記録に匹敵するものとなった。2004年の市町村別人身被害の内訳は下記の通りである。宇奈月町(1件, 成人女性1人), 魚津市(3件, 成人男性2人, 成人女性1人), 上市町(3件, 成人男性3人, 成人女性1人, 不明1人), 立山町(4件, 成人男性2人, 成人女性1人, 小学生2人), 富山市(3件, 成人男性2人, 成人女性1人), 福光町(5件, 成人男性4人, 成人女性2人), 城端町(1件, 成人女性1人), (件数は新聞記事の中で同じクマが場所を変えている場

合、それぞれの場所で記録したため、富山県自然保護課資料よりも多くなっている)。月別に人身事故の件数をみると10月が一番多く、続いて9月が多く、被害者数も9月と10月に集中している(表3)。

家屋内・建物内への侵入(玄関先含み、庭のカキ食害は除く)は、上市町2件(それぞれの場所で1頭1軒), 福光町1件(1頭3軒)であった。

家畜被害はニワトリ1件(魚津市), ウサギ1件(福光町)あった。

#### 2) 出没地域

2004年に入ってから市町村別の件数および出没場所メッシュ数は、131件, 113メッシュであり、内訳は下記の通りである。朝日町2(1), 宇奈月町8(7), 黒部市11(9), 魚津市11(11), 上市町9(6), 大山町4(3), 立山町9(9), 滑川市2(2), 富山市12(5), 大沢野町4(4), 山田村1(1), 八尾町7(7), 砺波市5(4), 庄川町1(1), 井波町1(1), 井口村1(1), 城端町6(5), 福野町1(1), 福光町12(11), 平村1(1), 上平村1(1), 小矢部市16(15), 高岡市1(1), 氷見市5(5)である(南砺市, 砺波市は旧市町村名, 市町村名の後に件数, カッコ内はメッシュ数)。

クマの目撃や捕獲などの出没記録は、23市町村, 計113メッシュから記録があり、10メッシュを越す市町村は、魚津市, 福光町(現南砺市), 小矢部市で、6~9メッシュの市町村は宇奈月町, 黒部市, 上市町, 立山町, 滑川市, 八尾町である。入善町, 婦中町, 利賀村からは、記録は収集できなかったが、実際は出没していると思われる。富山県のツキノワグマの分布については、第2回自然環境保全基礎調査(1978), 富山県(1990)のアンケート調査があり、前者は、県内山地全域から(メッシュで示されている), 後者では、富山県の標高200m付近の山麓部, 五箇山地方から記録があることを報告し、今回記録された、小矢部市以北, 富山市からは、ほとんど報告されていない。また、小矢部市などの平野部への分布拡大が示唆され(富山県, 1990), 村井ら(2003)の2003年の氷見市のツキノワグマと思われる記録

(2003-087, 2003-088)は、本種であった可能性は高いものと考えられる。氷見市における本種の生息は村井他(2003)以前の報告では知られていないことから、小矢部市の山地沿いから時間をかけて氷見市まで分布を広げたものと考えられる。

標高のわかったデータのうち(?)の付く標高は、その数字にした、110メッシュの標高別(50mごと)の出没メッシュ数は、下記の通りである。0-50m(11), 51-100m(43), 101-150m(14), 151-200m(25), 201-250m(4), 251-300m(8), 301-350m(3), 351-400m(1), 401m- (1)(括弧はメッシュ数)。0-100mで全体の49.09%を占め、0-200mでは84.5%を占め、標高100m以下の場所での出没が顕著であった。

#### 3) 出没時期・時間帯

出没の月別件数(目撃, 痕跡で出没時期がほぼ特定できる場合で、同じ個体でも場所が違えば1件と扱った)及びメッシュ数(重複は除く)は、計126件で、4月(1,1), 5月(1,1), 6月(7,7), 7月(10,10), 8月(0,0), 9月(41,40) <1日~10日(4,4), 11日~20日(16,16), 21日~30日(30,21)>, 10月(51,43) <1日~10日(14,13), 11日~20日(26,20), 21日~30日(11,30)>, 11月16件 <1日~10日(8,8), 11日~20日(6,6), 21日~30日(2,2), 12月(0,0)である(カッコの左は件数, 右はメッシュ数)。9月10日以降出没件数・メッシュ数とも増加し、10月がピークで、11月に入ると次第に減少している。

9~11月の出没时间が分かった90例の時間帯は(出没时间が継続している場合は最初の時間とする), 5時代5例, 6時代21例, 7時代11例, 12時代2例, 13時代3例, 14時代2例, 15時代8例, 16時代3例, 17時代8例, 18時代5例, 19時代1例, 20時代1例, 21時代1例, 22時代1例, 23時代4例である。早朝の5時代から真夜中の11時代まで出没しているが、早朝の5時代~6時代が全体の28.9%で、7時代までだと、41.1%である。

#### 4) 捕獲数

平成16年の捕獲数は120個体と例年をはるかに越える頭数で全てが有害捕獲である(表4)。平

成16年度の月別捕獲数は10月が59個体と最も多く、次いで11月の17個体, 9月の14個体となっている(表3)。

#### 2. その他の哺乳類

ミズラモグラ *Euroscaptor mizura* が2件記録された(2004-004, 2004-005)。いずれも立山町芦峯寺の室堂平における確認である。本種は環境省(2002)でレッドデータブックで準絶滅危惧種に記載されており、富山県(2002)では希少種として記載されている。

キクガシラコウモリ *Rhinolophus ferrumequinum* のルースト場所については澤田(1987)が7ヶ所, 村井・穴田(1993)が8ヶ所, 村井他(2003)が1ヶ所を報告している。今回の記録うち2004-006および2004-007については新たな夏期のルースト場所の記録となった。

アブラコウモリ *Pipistrellus abramus* の中で2004-012は富山市の松川を11:25に飛翔しているのを目撃したものである。本種は本来夜行性であり、珍しい観察例である。

ニホンザル *Macaca fuscata* の記録のうち2004-024は神通川左岸で複数個体を同時に観察したものである。「富山県ニホンザル保護管理計画」(富山県, 2004)で記録されているニホンザルの分布から、県内で唯一神通川の両岸を行動範囲にしている群(県内で唯一神通川左岸側に進出)と考えられる。

タヌキ *Nyctereutes procyonoides* の記録の中で2004-026および2004-027は高岡古城公園におけるものである。高岡古城公園の哺乳類相については高岡生物研究会・高岡地学研究会(1985)の調査結果があり、この調査では本種は記録されていない。高岡古城公園は高岡市の中心市街地にあり、周辺の交通量も多い場所であり、この由来については不明である。

立山町の芦峯寺でオコジョ *Mustela erminea* の記録が3件(2004-053, 2004-054, 2004-055)あった。本種は環境省(2002)でレッドデータブックで準絶滅危惧種に記載されており、富山県(2002)では希少種として記載されている。

ハクビシン *Paguma larvata* で高岡古城公園に



表1 (続き)

Table with columns for registration number, address, and other details. The table contains multiple rows of data for various locations in Japan, including cities like Tokyo, Osaka, and Fukuoka.

表1 (続き)

Table with columns for registration number, address, and other details. This table continues the data from the previous page, listing various locations and their corresponding registration information.



表3 平成16年度富山県内のツキノワグマの月別捕獲被害件数 (平成16年12月5日現在:富山県自然保護課資料)

	月別											
	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12		
捕獲総数	1	18	4	2	0	4	14	59	17	1		
内放獣頭数	0	0	0	1	0	1	3	6	3	0		
人身被害件数	0	1	0	0	3	0	5	7	0	0		
人身被害者数	0	1	0	0	4	0	8	11	0	0		
交通事故死数	0	0	0	0	0	0	3	0	1	0		

※人身被害件数と人身被害者数の差は、1頭のクマが複数名を襲ったものと捉えているものがあるため生じている。  
 ※交通事故死は、新聞で把握している数。  
 ※9月の3頭はいずれも魚津、11月は福光で事故発生。

表4 富山県内におけるツキノワグマの捕獲数の推移およびその内訳 (H16年12月9日現在:富山県自然保護課)

年度 捕獲 数 (頭)	昭和45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	平成元	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16
		256	35	66	65	106	81	25	73	25	22	32	33	23	34	30	32	43	33	56	37	19	29	35	17	27	8	24	20	17	42	34	26	33	27
	30	14	9	23	28	14	27	27	22	16	11	28	16	22	22	23	21	28	42	11	20	19	23	16	16	24	5	43	27	36	39	30	15	32	
	286	49	75	88	134	95	52	100	47	38	43	61	39	56	52	55	64	61	98	48	39	48	58	33	43	32	29	63	44	78	73	56	48	59	120

有害:有害鳥獣捕獲(駆除)による捕獲  
 放獣:ドラム缶等で生け捕りにしたクマにお仕置きによる学習をさせて、奥山放獣したもの

【観察ノート】

高岡市国分・雨晴海岸へ漂着したルリガイの観察

邑本順亮

〒933-0041 高岡市城東1-8-12

Abundant shells of *Janthina (Violetta) exigua* LAMARCK  
 Arrived at the Beaches of Amaharashi and Kokubu, Takaoka-City,  
 in the Autumn of 2004

Junryō Muramoto

1-8-12 Joto-machi, Takaoka-City, 933-0041 Japan

2004年の秋に高岡市国分浜や雨晴海岸へルリガイが多数漂着した。その観察結果を報告する。

なお、この機会に出会えたのは、9月26日に雨晴海岸で催された富山市科学文化センター自然教室の時に多くのルリガイが採集された、という布村昇館長からの情報がきっかけである。また、原稿をご一読頂き有益なご意見を頂いた。同氏に厚く御礼申し上げる次第である。

ルリガイ *Janthina (Violetta) exigua* LAMARCK は暖海性で巻き貝様の殻を持ち、自身が分泌して作った“筏”と呼ばれるポリスチレンのような構造の浮きに垂下して浮漂生活をする軟体動物である。富山湾へは対馬暖流に乗って運ばれてくるもので年によって漂着状況が異なり、最近では2000年に比較的多く漂着した。



写真1 採集したルリガイとその筏

雨晴海岸へ採集に出かけたのは2004年10月4日の夕方である。雨晴海岸の通称“義経岩”西側で漂着して間もないと思われる数多くのルリガイを見た。筏に付いたままの生体が幾つも漂着していたので、できるだけ多くの個体を筏と共に採集して帰った。

2000年秋季に富山湾沿岸を石川県の能登島まで北上して調査したが、この時採集できたのは打ち上げられた貝殻がほとんどで、しかも1地点でもくても10個程度であった(邑本・布村、2001)。

今回は、雨晴の通称“義経岩”西側で10月4日に筏に付着した状態の生体およそ10個体余りを含む64個体、10月6日には国分浜の加古川河口より東側で138個体を採集した。国分の場合は筏に付着したまま干からびた個体がいくつもあった。

ほかに庄川河口で2個体を採集したが、それより東の海岸では採集されなかった。

このような観察結果から雨晴・国分ともに10月3日から4日にかけて漂着したものと判断した。漂着した貝殻はその後数日の間に風や波で飛ばされたり砂浜に埋ったりして見当たらなくなることもわかった。

採集した貝殻は前回(2000年秋季)に比べて小さいものが目立つようだったので計測してみると、表1・表2のようになった。今回は採集個体